

かなやましゅう 「金山衆」と「武州境防衛の要衝」

所要時間(往復)
車 90分

小丹塩
菅波山
村山村

山梨県内には、戦国時代に開発されたと考えられる金山がいくつか分布している。例えばけいかんざん鶏冠山(黒川山)東麓の黒川谷一帯に位置する黒川金山や、丹波山金山などがあげられる。また、武蔵と接する丹波山・こすげのぶかけ小菅地域は、武田氏にとって関東方面に対する要衝の地であった。この地を支配していたのが、豪族・小菅信景であり、現在も関連遺跡を見ることができる。



④ 国指定史跡 黒川金山

黒川金山は、戦国時代に最盛期を迎え、鉱石の精錬場や金山衆の生活を示す遺構が発掘されている。当時は、「黒川千軒」とよばれるほど鉱山町として賑わった。出土した鉱石を砕くための挽き臼などは、県指定有形文化財。

② 鶏冠神社

鶏冠山の山頂には、金山の守護神である鶏冠神社の奥宮がある。これと対になる里宮(前宮)は北方の高橋集落にあり、ご神体は十一面観音像で、奉納された金の鏡には天正五年(1577)の銘がある。

③ 丹波山金山遺跡

黒川金山から丹波山にかけて、戦国時代から江戸時代の初めにかけて砂金が多く出た。さらに河岸段丘上や付近の山野などに堆積した砂金である「柴金」の探掘も並行して行われていた。露天掘りの探掘坑や、挽き臼などが見つかった。

④ 小菅城跡

小菅信景が天神山に築いた山城とされる。山頂の主郭は、おびょうとくくるわ带状腰曲輪で囲まれ、尾根上には堀切がある。山麓には居館跡とされる方形区画も確認でき、居館と詰城の関係をうかがわせる。



⑤ 箭弓神社

⑤ 箭弓神社

信景が建立したとされる。丹波山・小菅両村の総社であったという。

⑥ 宝生寺

信景が開基と伝える。



④ 小菅城跡



⑥ 宝生寺